

事業承継を力強く支援

来賓あいさつ



中小企業庁長官
長谷川 榮一氏

中小企業の承継を支援 新制度の有効活用推進

中小企業の経営を取り巻く環境は厳しくなっている。しかし日本の産業競争力、雇用の源泉、さらに地域経済や社会の安定のためには、しっかりとした中小企業があつてこそいい。中小企業庁は各地の商工会議所や商工大会などの協力を活用していただければと考えている。

を得て、事業承継支援センターを設けている。すでに全国の百二十カ所で活動している。同時に税理士や弁護士の方にも広げてこの制度を使うように協力を求めている。意見もいたしてほしい。中小企業は社会的にも国家的にもきわめて意義がある存在なのに、これまで相続税制が十分でないとの批判があつた。半世紀にわたって大きな課題となつてきたが、中小企業の承継を支援する制度がやっと出来上がった。新しい制度の誕生によって、経営戦略を考へるうえで大きく視野が広がったのではないかと。税制の内容を知って、有効に活用していただければと考えている。

基調講演

創業者精神と事業承継



光産業創成大学院大学
教授 後藤 俊夫氏

創業以来二百年以上続いている長寿企業が三百十三社、百年以上の老舗企業が五万社以上ある。このうち二千年以上続いているのが十九社あり、最も古い長寿企業は神田区にあり、創業は明治三十四年、五十七年に創業して小資本とされている。

相談できる第三者の確保重要 老舗の活性化、近代経営に課題

規模の小さな企業も含めて社会貢献に熱心で、地域への寄付だけでなく財団を設け、あるいは付属の資料館、企業博物館を持っている。江戸時代、あるいはそれ以前から、ていつ奉公から始まる人事・教育や複式簿記、リスク管理など近代経営をしっかりと積み重ねてきた。最も重要で根源的な要因と考えられるのが、「家業を絶対受け継いでいく」という強い意志だ。



中小企業庁事業環境部
財務課長 佐藤 悦緒氏

特別講演

中小企業の事業承継円滑化のための 総合的支援策について

予にしよう、適用企業を中小企業基本法上の中小企業としてきた。これによって日本企業の九八・八％が対象となる。

すべての中小企業が対象

家業を受け継ぐ強い意志 長期的視点、「身の丈経営」を实践

中小企業で経営者の高齢化が進む中、事業承継の円滑化が大きな課題となっている。計画的なバトンタッチを税制面で支援する中小企業経営承継円滑化法が十月一日に施行され、各地の事業承継支援センターも相

談に乗っている。中小企業基盤整備機構と日本経済新聞社が主催した事業承継シンポジウムでは、新法の解説と事例を含めての討論があり、事業承継に関して多くのヒントが出された。

事業承継シンポジウム2008

円滑な事業承継を成功させるために

日経産業新聞 フォーラム 2008

いた。中小企業基盤整備機構は三年前に発足した事業承継協議会の事務局を担当し、昨年からは全国九カ所の支部にコーディネーターを配置、専門家や関係機関を交えた支援ネットワークをつくっている。各種の相談にはワンストップで応じている。事業承継のシンポジウム、セミナーも各地で開いているが、参加者がいまだに増え続けており、新しい法律に対する関心が高まっている。中小企業大学校では経営者の泊まり込み研修を手がけている。

後継者教育、経営体制の整備 取り組み強化へ支援体制

後継者の教育、経営体制の整備など計画的に経営権の委譲を長い期間をかけて取り組む必要がある。

の体、気が充実していれば息子の失敗があっても私が支援できる」という理由からだった。

長寿企業にとって「承継は極めて重要なもの」となっている。社長自身も他人には相談できず悩むケースが多い。そのためには安心して相談できる第三者の確保が重要といえる。従業員持ち株会社も非常に効果がある。

事業承継税制は、適用企業は五年間、事業を継続し、雇用の八割以上を維持することが要件となっている。これは、税制の目的が雇用確保や地域経済の活力維持に資することにあるから、毎年一回、経済産業大臣に報告している。要件を満たしている限りは納税猶予が継続される。

五年の間に企業の組織再編や大企業への成長があつたとき、この税制が使えないと前向きな企業活動が止まってしまう恐れがある。そこで組織再編のときも代表者の継続、雇用の八割維持、持ち株比率要件を満たしていれば認定の承継を認める。また、中小企業から成長した大企業になっても構わない。

税制改正の要綱では「一定の場合に納税義務の納付を免除する」と書いているが、「一定の場合」の条件は何かまだ決まっていない。

広告

時代見据えた経営ビジョンを構築

パネリストスキャショ

円滑な事業承継を成功させるために

親族内承継のケース

樋口 本日は、事業承継にまつわる様々な問題をいかにクリアし、プラスの方向に持っていくかについて議論したい。まず、自己紹介から。

伊藤 埼玉で金属メッキなどをメインに表面処理を行っている。梅原 東京都府中市で、主に小型旋盤関係の工具をつ

吉岡 弁護士一人の事務所です。事業承継、相続、遺言などに関する業務を行っている。後 法人税や所得税の申告、相続対策や事業承継対策などをしている。

平田 事業承継の相談を承っている。樋口 伊藤さんは親族内承

継だが、会社の歴史をうかがっていた。伊藤 会社は今年で五十年を迎えた。創業時は臨時計

関係のメッキを行っていた。父が急逝した後、経営を任せ

た人の放漫経営で業績が急速に悪化、倒産寸前まで追い込

まれた。そこで、私が社長になり、時計以外の製品を増や

した。私は後継者として育てられたのではなく、宝子鑑定の勉

強でカリフォルニアに行っていた時、日本から「家を手放

すことになるかもしれない」という電話がかかってきてシ

ョクを受けた。日本に引越す準備のため

に帰ってきた。弁護士、税理士などいろいろな方々と

打ち合わせがあり、会社に行

パネリスト

梅原 勝彦氏

伊藤 麻美氏

吉岡 毅氏

後 宏治氏

平田 続久氏

樋口 一郎氏

モデレーター

日経BPP社ベンチャーサービス局プロデューサー

日経ベンチャー前編集長

事業承継シンポジウム2008

～円滑な事業承継を成功させるために～

会場：東京都府中市

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何

かバトンタッチの準備をして

きたのか。

梅原 後の人がきちんとや

れるよう社員教育を怠らない

ことを日頃からやってきた。

梅原 会社をつくった当時

から世間ははたかたとき

えていた。私は十二歳から

会社を投げ出されたが、辞

めるときは自分の意思で辞め

たいと考えていた。そこで、

後 自分が困らないクリーンな

良い子供に継がす気が起こ

らないほど大変だった。そこ

で他人に委ねた。

樋口 梅原さんは「会社は

社会の公器」という考え方を

貫いてきた気がする。それは

重要な考え方だと思うが、何